

滋賀医大病院ニュースTOPICS Vol.86 (2020/9)

その他の言語のタイトル	滋賀医大病院ニュース第59号別冊
著者	滋賀医科大学広報委員会
発行年	2020-09
URL	http://hdl.handle.net/10422/00012808

TOPICS

[Vol.86]

周術期の口腔ケアについて

歯科口腔外科 越沼 伸也

安心して治療を受けるために



『周術期口腔機能管理』ということばをご存知でしょうか？周術期とは、

がんなどの病気と診断されてから、入院、麻酔、手術、回復までを含めた術前・術中・術後の期間を指します。

全身麻酔による手術のほか、がんの化学療法や放射線治療を受ける患者さんに対して、歯科医師や歯科衛生士が口の中をチェックして、より良い状態になるよう治療やケアを行うことが『周術期口腔機能管理』です。2012年には、がん治療における『周術期口腔機能管理』が初めて健康保険適用とな

りました。

国をあげて周術期の口腔ケアを推進することになったのは、さまざまなメリットがあるからです。治療前から口の中の環境を整え、患者さん自身で行うセルフケアも含めて、術前・術後・回復期を通してできるだけ良い状態を保つことが、感染症や合併症出現のリスクを下げ、早期の回復につながります。

術前のケアで感染症などのリスクを軽減

大きな手術やがんの治療を受ける時に、口の中を清潔に保っておくことがそれほど重要なことなのだろうか？疑問に思われるかもしれません。

私たちの口の中には数百種類もの口腔細菌がいて、歯周病のほかさまざまな全身疾患にも関連していることが知られています。手術や抗がん剤、放射線などの治療を受けている間は、口腔環境が悪化しやすく、健康な時以上に口腔ケアを行って口の中を清潔に保つ

ておくことが必要になります。

たとえば、口の中に細菌がたくさんいる状態で手術を受けると、感染の危



険性が高まります。全身麻酔で気管にチューブを差し込む時に、口腔内の細菌が侵入して『誤嚥性肺炎』を引き起こしたり、口腔内細菌が手術した部位に感染して感染症を引き起こし、回復が遅れたりする恐れがあります。

さらに、チューブを挿管する時に、グラグラしていた歯が抜けて出血したり、抜けた歯が食道や気管に入り込んでしまう危険性も考えられます。

生活の質を保ち、回復を早める効果も

化学療法や放射線療法を行うと免疫力や皮膚の再生力が下がるため、口内炎（口腔粘膜炎）や口腔乾燥、口腔内感染症などの口腔内副作用が起こりやすく、また治りにくくなります。食事や会話も辛くなるほど重症化することも多く、患者さんの生活の質の低下につながります。

早い時期に口から食事が摂れるようになれば、術後体力の回復が早まり、早期退院につながるのですが、口内炎などの口腔疾患や入れ歯の不具合、咀嚼や飲み込みなどに問題がある場合は、なかなか口からの食事を再開することができず回復が遅れてしまうこともあります。



『周術期管理チーム』が多職種でサポート

滋賀医科大学医学部附属病院では、2014年から『オーラルマネジメントシステム』をスタートして、周術期の口腔機能管理の体制づくりに取り組みました。2015年には看護師や栄養士、言語聴覚士など多職種からなる『周術期管理チーム』が発足、歯科医師と歯科衛生士がチームの一員として、『オーラルマネジメントシステム』による手術前後の口腔ケアを担うようになっています。

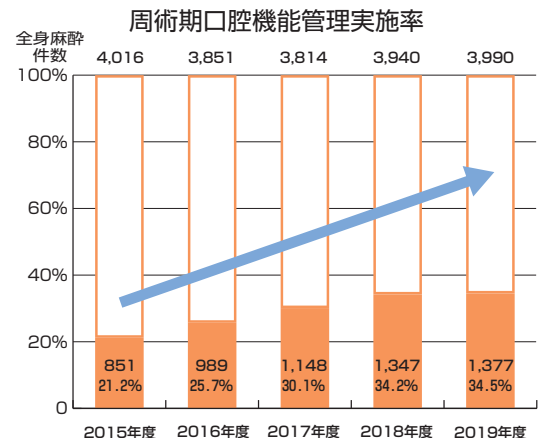
チームでは、主治医からの依頼を受けて、手術の前に患者さんの口腔内をチェックして、プラークや歯石を取り



除いたり、グラグラしている歯や虫歯の応急治療や義歯の調整を行うだけでなく、ブラッシング指導を行って、患者さんご自身でも口の中を清潔に保っていただけるようになっています。

そして、手術後や化学療法・放射線療法が開始された後も定期的に口腔ケアを行い、より早い回復につながるようサポートします。2015年度の851件から昨年度は1,377件と、全身麻酔の手術における『周術期口腔機能管理』実施率は年々増加しています。

安心して前向きに治療に取り組み、早期の回復を目指していただくためにも、『周術期口腔機能管理』の重要性についてこれからも啓発活動を継続し、県民のみならずへ周知を図っていくことが大切であると考えています。

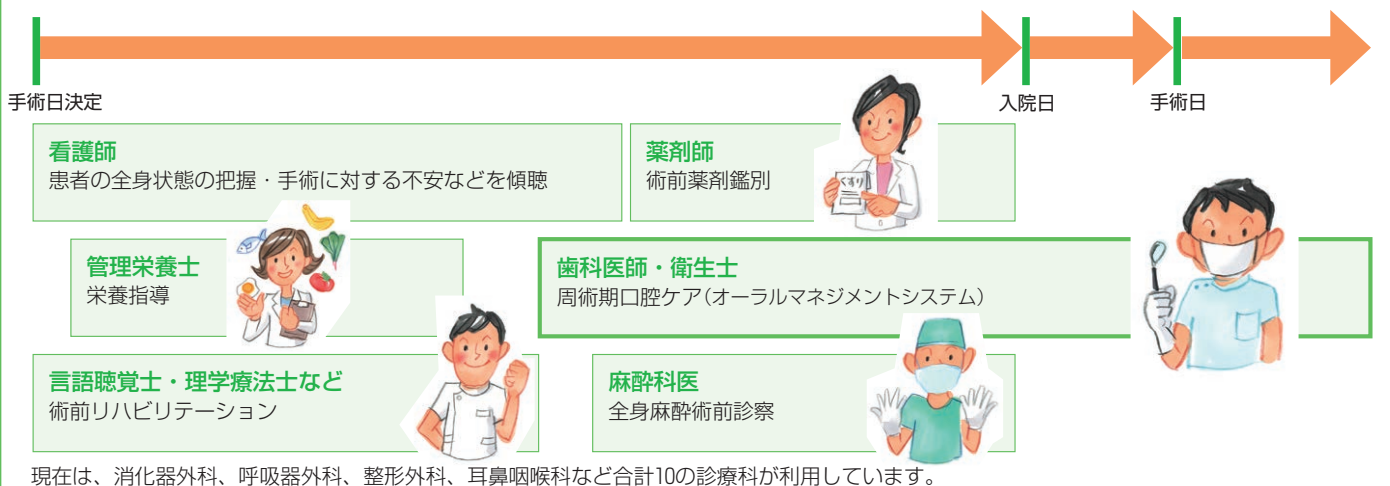


全身麻酔件数に対する周術期口腔機能管理実施率は、2015年度には21.2%でしたが、徐々に増加し、2019年度は34.5%でした。

<周術期口腔機能管理のメリット>

- ① 事前にう蝕（虫歯）や動揺歯の処置を行うことで、気管挿管の安全性が増す。
- ② 誤嚥性肺炎や創部感染などのリスクを軽減できる。
- ③ 術後の口内炎などの口腔疾患の発症リスクが低下する。
- ④ 早い段階で口から食事ができるようになる。

周術期管理チームの概要



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第59号別冊
編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL：077(548)2012(総務企画課)

過去のTOPICS(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



●理念を実現するための基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・安心・満足を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- グローバルな視点を持ち、人間性豊かで優れた医療人を育成します
- 将来にわたって質の高い医療を提供するため、健全な病院経営を目指します